

古典文法・助動詞⑥ 「む、むず」【解答】

【練習1】

- 1 (口語訳) 深い理由があるのだろう
(文法的説明) 推量の助動詞「む」の終止形
「ん」は「む」の音が変化したもの。

- 2 (訳) 気持ちができるだろう

(説) 推量の助動詞「む」の已然形
強意の係助詞「こそ」との係り結びで已然形「め」となっている。

- 3 (訳) 何の楽しみがあるだろうか、いや無い。

(説) 推量の助動詞「む」の連体形
「む」は反語の係助詞「か」と係り結びになっ
ていて連体形。

- 4 (訳) 探そう

(説) 意志の助動詞「む」の終止形
「我」という一人称主語であり、「む」は意
志でとるのがよい。

- 5 (訳) つかみつぶそう

(説) 意志の助動詞「む」の終止形
主語は明記されていないが、「私がしよう」と
いう一人称主語の文脈であり、「む」を意
志でとるのがよい。

- 6 (訳) 子を産もう

(説) 意志の助動詞「む」の終止形
一人称主語ではないが、「意志」で解釈する
のが自然な例。「と」の上は終止形。

- 7 (訳) 疎遠であるのがよい

(説) 適當の助動詞「む」の終止形
主語は二人称ではないが、「適當」で解釈す
るとうまくいく例。「な」は強意(完了)の
助動詞「ぬ」の未然形。

- 8 (訳) いないのがよい

(説) 適當の助動詞「む」の終止形
二人称主語ではないが、「適當」で解釈す
るとうまくいく例。「な」は強意(完了)の
助動詞「ぬ」の未然形。

- 9 (訳) 心を痛ませる(苦しめる)のは

(説) 勧誘の助動詞「む」の終止形
主語は明示されていないが文脈では「あな
たは」と二人称主語になり、「勧誘」でとる
とうまくいく例。「なむや」は「勧誘・適當」
によくある形で「な」は強意(完了)の助
動詞「ぬ」の未然形。「や」は疑問の係助詞。

- 10 (訳) 宮中に参上なさいませんか

(説) 勧誘の助動詞「む」の終止形
主語は明示されていないが文脈では「あな
たは」と二人称主語になり、「勧誘」でとる
とうまくいく例。「なんや(なむや)」は「勧
誘・適當」によくある形で「な」は強意(完
了)の助動詞「ぬ」の未然形。「ん」は「む」
が変化した形。「や」は疑問の係助詞。

- 11 (訳) 下手だろうか(まずいだろうか)

(説) 推量の助動詞「む」の終止形
二人称主語ではなく、「勧誘・適當」で訳す
とうまくいかない。「なんや」の「な」は完
了(強意)の助動詞「ぬ」の未然形。「ん」
は「む」の変化。「や」は疑問の係助詞。

- 12 (訳) 生きていられるだろうか、いやき
つと生きてはいられないだろう

(説) 推量の助動詞「む」の終止形
「主語は「我らは」という一人称で、「勧誘・
適當」ではない。「なんや(なむや)」の「な」
は完了(強意)の助動詞「ぬ」の未然形。「ん」
は「む」が変化した形。「や」は反語の係助詞。

- 13 (訳) あるだろうか、いやきつと無いだ
ろう

(説) 推量の助動詞「む」の終止形
「主語は「命は」という三人称で、「勧誘・
適當」ではない。「なんや(なむや)」の「な」
は完了(強意)の助動詞「ぬ」の未然形。
「ん」は「む」が変化したもの。「や」は反語
の係助詞。

- 14 (訳) 言うのがよい

(説) 適當の助動詞「む」の終止形
「て」は完了(強意)の助動詞「つ」の未然
形。また「てむ」は「勧誘・適當」でよく見
る形。

15 (訳) なさるのがよい(なさいませんか)。

(説) 勧誘(適當)の助動詞「む」の已然形
「主語は明記されていないが、文脈上は二人称主語であり、「勧誘・適當」で解釈するとうまいく形。「てめ」の「て」は完了(強意)の助動詞「つ」の未然形。「め」は驚異の係助詞「こそ」の係り結びで已然形。「こそゝめ」は「勧誘・適當」でよく見る形。

16 (訳) 交換しませんか

(説) 勧誘の助動詞「む」の連用形
「てんや(てむや)」の「て」は強意(完了)の助動詞「つ」の未然形。「ん」は「む」が変化したもの。「や」は疑問の係助詞。

17 (訳) 聞いてくださいませんか

(説) 勧誘の助動詞「む」の終止形
「て」は完了(強意)の助動詞「つ」の未然形。「や」は疑問の係助詞。主語は明示されていないが、文脈上「あなたは」と二人称主語で、「勧誘」で解釈するとうまいく。

18 (訳) 預けてくれませんか

(説) 勧誘の助動詞「む」の終止形
「て」は完了(強意)の助動詞「つ」の未然形。「や」は疑問の係助詞。主語は明示されていないが、文脈上「あなたは」と二人称主語で、「勧誘」で解釈するとうまいく。

19 (訳) きつと読むのだろうか

(説) 推量の助動詞「む」の終止形
「て」は完了(強意)の助動詞「つ」の未然形。「や」は疑問の係助詞。

20 (訳) お前は生きているだろうか、いやきつと生きているはいないだろう。

(説) 推量の助動詞「む」の終止形
「て」は完了(強意)の助動詞「つ」の未然形。「ん」は「む」が変化したもの。「や」は疑問の係助詞。

21 (訳) お帰りになりませんか(帰りなさるのがよい)。

(説) 勧誘(適當)の助動詞「む」の已然形
「め」は強意の係助詞「こそ」と係り結びになっているので已然形。主語は明示されていないが文脈上「あなたは」と二人称主語で、「勧誘・適當」でよくある形。

ないが文脈上「あなたは」と二人称主語で、「勧誘・適當」でとるとうまいく。「こそゝめ」は「勧誘・適當」でよくある形。

22 (訳) お試しになるのがよい(試しなさいませんか)

(説) 勧誘(適當)の助動詞「む」の已然形
「め」は強意の係助詞「こそ」と係り結びなので已然形。主語は明示されていないが文脈上「あなたは」と二人称主語であり、「勧誘・適當」でとるとうまいく。「こそゝめ」も「勧誘・適當」でよくある形。

23 (訳) 射なさるのがよい

(説) 適當の助動詞「む」の已然形
「め」は強意の係助詞「こそ」と係り結びで已然形。主語は明示されていないが文脈上「あなたは」と二人称主語であり、「適當」でとるとうまいく。「こそゝめ」も「勧誘・適當」でよくある形。

24 (訳) お使いになるのがよい(お使いになりませんか)

(説) 適當(勧誘)の助動詞「む」の已然形
「め」は強意の係助詞「こそ」と係り結びなので已然形。主語は明示されていないが文脈上「あなたは」と二人称主語であり、「勧誘・適當」でとるとうまいく。「こそゝめ」も「勧誘・適當」でよくある形。

25 (訳) 物の情趣を解するような友人

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「ん(む) + 名詞」で、「仮定・婉曲」の形。ここでは「婉曲」で訳したが、「もし物の情趣を解するなら、そのような友がほしいなあ」と「仮定」で訳すこともできる。「ん」は「む」が変化した形。

26 (訳) あるような時は(もしあるなら、その時は)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「ん(む) + 名詞」で、「仮定・婉曲」の形。仮定・婉曲どちらでも訳せる。

27 (訳) 自分こそは優れていると思うような人々は(自分こそは優れているともし思うなら、その人々は)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「ん(む) + 名詞」で、「仮定・婉曲」の形。
仮定・婉曲どちらでも訳せる。

28 (訳) 宝の山に入って、何も取らず手ぶ
らで帰ったような気持ちができる。

(説) 婉曲の助動詞「む」の連体形
「む + 名詞」で「婉曲」でとるとよい。

29 (訳) 献上するような人には (もし献上
するなら、その人には)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「む + 名詞」で、「仮定・婉曲」。仮定・婉
曲どちらでも訳せる。

30 (訳) お前が欲しいと思うような物を
(もし欲しいと思うなら、その物を)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「ん(む) + 名詞」で、「仮定・婉曲」。仮
定・婉曲どちらでも訳せる。

31 (訳) 火で焼くような時に (もし火で焼
くとして・火で焼いてみて)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「むに」で、「仮定・婉曲」になる例。「に」
は格助詞。「焼かむ《時・場合》に」と言葉
を補うと読みやすくなる。仮定・婉曲どち
らでも訳せる。

32 (訳) 私が后となるような時には (もし后
となるとしたら、その時には)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「むに」で、「仮定・婉曲」になる例。「に」
は格助詞。「成らむ《時・場合》に」と言
葉を補うと読みやすくなる。仮定・婉曲
どちらでも訳せる

33 (訳) 踏むような時に (もし踏むとしたら、
その時に)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「ん(む)に」の形で「仮定・婉曲」になる
例。「も」は係助詞。「踏まん《時・場合》
に」と言葉を補うと読みやすくなる。仮
定・婉曲どちらでも訳せる。

34 (訳) 寝ないような場合も (もし寝ないと
したら、その場合も、寝ないようなこ

とも)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「むも」の形で「仮定・婉曲」になる例。
「も」は係助詞。「寝ざらむ《時・場合・
こと》も」など言葉を補うと読みやすく
なる。仮定・婉曲どちらでも訳せる。

35 (訳) 返事するような時も (もし返事した
ら、その時も)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「ん(む)も」の形で「仮定・婉曲」になる
例。「も」は係助詞。「答へむ《時・場合》も」
と言葉を補うと読みやすくなる。仮定・婉
曲どちらでも訳せる。

36 (訳) わずらわしそうに会話するようなこ
とも (もし会話するなら、それも)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「ん(む)も」の形で「仮定・婉曲」になる例。
「も」は係助詞。「言はん《時・場合・こと》
も」など言葉を補うと読みやすくなる。仮
定・婉曲どちらでも訳せる。

37 (訳) 全部を張り替えますような時は (全
部をもし張り替えますならば、その
場合は)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「むは」の形で「仮定・婉曲」になる例。「は」
は係助詞。「張り替へ候はむ《時・場合・こ
と》は」など言葉を補うと読みやすくなる。
仮定・婉曲どちらでも訳せる。

38 (訳) 言ったような時は (もし言うとした
ら、その時は)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「ん(む)は」の形で「仮定・婉曲」になる例。
「は」は係助詞。「言ひたらん《時・場合》は」
など言葉を補うと読みやすくなる。仮定・婉
曲どちらでも訳せる。

39 (訳) 使わないような時は (もし使わない
なら、その時は)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形
「むは」の形で「仮定・婉曲」になる例。「は」
は係助詞。「用ゐざらむ《時・場合》は」と
言葉を補うと読みやすくなる。仮定・婉曲ど
ちらでも訳せる。

40 (訳) 後世まで残るような時は(もし残るとしたら、その時は)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形「ん(む)こそ」の形で「仮定・婉曲」になる例。「こそ」は係助詞。「有らん《時・場合・こと》こそ」など言葉を補うと読みやすくなる。仮定・婉曲どちらでも訳せる。

41 (訳) 髪が美しいような時こそ(髪がもし美しいなら、その時こそ)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形「ん(む)こそ」の形で「仮定・婉曲」になる例。「こそ」は係助詞。「めでたからん《時・場合・こと》こそ」など言葉を補うと読みやすくなる。仮定・婉曲どちらでも訳せる。

42 (訳) 見せるような時こそ(もし見せるなら、その時こそ)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形「んこそ」の形で「仮定・婉曲」になる例。「こそ」は係助詞。「見えん《時・場合・こと》こそ」など言葉を補うと読みやすくなる。仮定・婉曲どちらでも訳せる。

43 (訳) 愛されるような時ほど(もし愛されるなら、その時ほど)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「む」の連体形係り結びになっていて連体形。

44 (訳) 人々が参上するだろう

(説) 推量の助動詞「むず」の終止形「むず」は「むとす」(くしようとする)の変化した語で、「む」と同様と考えてよい。

45 (訳) 私はきっと疑われるだろう

(説) 推量の助動詞「むず」の終止形「んず(むず)」は「むとす」(くしようとする)の変化した語で、「む」と同様と考えてよい。「な」は強意(完了)の助動詞「ぬ」の未然形。

46 (訳) 必ず死ぬだろう

(説) 推量の助動詞「むず」の終止形「むず」は「むとす」(くしようとする)の変化した語で、「む」と同様と考えてよい。

47 (訳) かかるだろう(必要であるだろう)

(説) 推量の助動詞「むず」の終止形「んず(むず)」は「むとす」(くしようとする)の変化した語で、「む」と同様と考えてよい。「な」は強意(完了)の助動詞「ぬ」の未然形。

48 (訳) きっと起こすだろう

(説) 推量の助動詞「むず」の終止形「んず(むず)」は「むとす」(くしようとする)の変化した語で、「む」と同様と考えてよい。「んず」に続く助動詞「らん(らむ)」は一般には現在推量(今ごろだろう)だが、この例文のように「むずらむ」の形で使われる場合は、単に推量(くだろう)で訳すとよい。

49 (訳) 親はどんなに腹立ちなさるだろう

(説) 推量の助動詞「むず」の終止形「んず(むず)」は「むとす」(くしようとする)の変化した語で、「む」と同様と考えてよい。「んず」に続く助動詞「らん(らむ)」は一般には現在推量(今ごろだろう)だが、この例文のように「むずらむ」の形で使われる場合は、単に推量(くだろう)で訳すとよい。

50 (訳) どれほど嘆きなさるだろう

(説) 推量の助動詞「むず」の終止形「むず」は「むとす」(くしようとする)の変化した語で、「む」と同様と考えてよい。「むず」に続く助動詞「らむ」は一般には現在推量(今ごろだろう)だが、この例文のように「むずらむ」の形で使われる場合は、単に推量(くだろう)で訳すとよい。

51 (訳) どこかへ行こうとする

(説) 意志の助動詞「むず」の連体形「んず(むず)」は「むとす」(くしようとする)の変化した語で、この例文では元の形「行かむとする」に置き換えると解釈しやすい。

52 (訳) さし上げようと思うのです

(説) 意志の助動詞「むず」の連体形「んず(むず)」は「むとす」(くしようとする)の変化した語で、この例文では元の形「奉り候はむとする」と置き換えると解釈しやすい。「なり」は断定の助動詞。

53

(訳) あぶり殺そうと思うのだ

(説) 意志の助動詞「むず」の連体形

「んず(むず)」は「むとす」(ゝしようにとる)の変化した語で、この例文では元の形「炙り殺さむとする」と置き換えると解釈しやすい。

54

(訳) しなさるのがよい

(説) 適當の助動詞「むず」の已然形

「むずれ」は強意の係助詞「こそ」と係り結びで已然形。主語は明示されていないが文脈上「あなたは」と二人称主語であり、「む」の場合と同様に「勧誘・適當」で解釈するとうまくいく。またこの例文では「こそゝむずれ」だが、「こそゝめ」も「勧誘・適當」でよくある形。

55

(訳) しなさるのがよい

(説) 適當の助動詞「むず」の已然形

「むずれ」は強意の係助詞「こそ」と係り結びで已然形。主語は明示されていないが文脈上「あなたは」と二人称主語であり、「む」の場合と同様に「勧誘・適當」で解釈するとうまくいく。またこの例文では「こそゝむずれ」だが、「こそゝめ」も「勧誘・適當」でよくある形。

56

(訳) 失うようなことは(もし失うとしたら、その時は)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「むず」の連体形

「んず(むず) + 名詞」で「仮定・婉曲」。仮定・婉曲どちらでも訳することができる。「て」は強意(完了)の助動詞「つ」の未然形。

57

(訳) 帰ってしまいますようなこと(もし帰りますとしたら、そのこと)

(説) 婉曲(仮定)の助動詞「むず」の連体形

「むず + 名詞」で「仮定・婉曲」。仮定・婉曲どちらでも訳することができる。「な」は完了(強意)の助動詞「ぬ」の未然形。